

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質									3.5
Q1 室内環境					0.40		-		3.3
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00		3.0
1.1 室内騒音レベル				3.0	0.48	3.0	0.49		
1.2 遮音				3.0	0.48	3.0	0.49		
1 開口部遮音性能				3.0	0.94	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能				3.0	0.04	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	0.01	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	0.01	3.0	0.20		
1.3 吸音				3.0	0.03	3.0	0.01		
2 温熱環境				2.2	0.35	4.0	1.00		3.3
2.1 室温制御				3.4	0.50	4.0	1.00		
1 室温				3.0	0.60	-	-		
2 外皮性能		外皮平均熱貫流率0.86以下、冷房期の平均日射熱取得率2.1以下		4.0	0.36	4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性		ゾーニング毎に個別空調をしているため、冷暖房の選択も可能。		4.0	0.04		-		
2.2 湿度制御				1.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式				1.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				2.0	0.25	3.2	1.00		2.8
3.1 昼光利用				1.8	0.30	3.4	0.50		
1 昼光率		昼光率1.12%以上		1.0	0.60	5.0	0.51		
2 方位別開口						1.0	0.28		
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	0.21		
3.2 グレア対策				1.0	0.30	3.0	0.50		
1 昼光制御				1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度				3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御				3.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.8	0.25	4.2	1.00		4.1
4.1 発生源対策				5.0	0.58	5.0	0.63		
1 化学汚染物質		建築材料は、JIS・JAS規格のF☆☆☆☆ほぼ全面的に採用し、低VOCの建材も採用している。		5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気				2.0	0.38	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	0.48	3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0	0.04	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				1.0	0.48	3.0	0.33		
4.3 運用管理				3.6	0.03		-		
1 CO ₂ の監視				1.0	0.33		-		
2 喫煙の制御		建築物内全館禁煙で、屋外に喫煙スペースを設けていない。		5.0	0.67		-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-		3.2
1 機能性				3.8	0.40	3.0	1.00		3.2
1.1 機能性・使いやすさ				3.9	0.40	3.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0	0.02	3.0	0.03		
2 高度情報通信設備対応				1.0	0.02	3.0	0.97		
3 バリアフリー計画		バリアフリー新法に望ましいレベルで適合している。		4.0	0.96		-		
1.2 心理性・快適性				2.9	0.30	3.0	0.40		
1 広さ感・景観				3.0	0.05	3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.02		-		
3 内装計画				3.0	0.93	3.0	0.50		
1.3 維持管理				4.5	0.30		-		
1 維持管理に配慮した設計		風除室の1次扉と2次扉が同時に開かないように3m以上距離を確保。外部に露出する金属部材は溶融亜鉛メッキ処理棟及びアルミ材を採用。内外の動線上は段差を5mm以下としている。		5.0	0.50		-		
2 維持管理用機能の確保		廃棄物のスペースを確保しており、搬出も容易な計画となっている。		4.0	0.50		-		
2 耐用性・信頼性				3.5	0.30		-		3.5
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.8	0.50		-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		建築基準法に定められた25%増しの耐震性を有する。		4.0	0.80		-		
2 免震・制震・制振性能				3.0	0.20		-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.9	0.30		-		
1 躯体材料の耐用年数		劣化等級数3相当の仕様。		5.0	0.20		-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.20		-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		住戸洋室:床ビニル床シートt1.8(乾式2重床+合板t12+5.5)、壁ビニルクロス(PBt9.5)、天井ビニルクロス(PBt9.5)		4.0	0.10		-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.10		-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、汚水排水VP(B)雑排水VP(B)、Eは不使用。		5.0	0.20		-		
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.20		-		
2.4 信頼性				2.2	0.20		-		
1 空調・換気設備				3.0	0.20		-		
2 給排水・衛生設備				3.0	0.20		-		
3 電気設備				1.0	0.20		-		
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20		-		
5 通信・情報設備				1.0	0.20		-		

3 対応性・更新性			3.0	0.30	2.7	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			2.4	0.03	2.4	0.50	
1 階高のゆとり			2.0	0.60	2.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり		事務所は集会室並みとして3500N/m ²	4.0	0.03	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.93	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.1
1 生物環境の保全と創出		周辺道路と同じクマツをメインツリーとして採用した。外構緑化指数が50%を超えている	4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物妻側の短辺方向を道路に面して配置し、近隣に対する圧迫感の低減に努めた。周囲に緑が少ないため、道路から見える位置に多く植栽した。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30	-	-	4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		集会所と一体として使えるひろばなどコミュニティーの場を多く提供している。外廊下に面して緑化し、豊かな中間領域を形成した。	5.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		中・高木、ビロイ等水平投影面積率は20%以上30%で、緑被率、水平投影率の合計は30%以上。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0
1 建物外皮の熱負荷抑制		断熱性能等級4相当。	3.4	0.20	-	-	3.4
2 自然エネルギー利用			3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.68(集合住宅共用部)BEI=0.44(1階非住宅部分)、LED照明設備を導入。	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用			2.8	0.20	-	-	2.8
集合住宅以外の評価			2.0	0.17	-	-	
4.1 モニタリング			-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			2.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			3.0	0.83	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			2.2	0.20	-	-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.60	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		住戸は躯体+木軸+仕上材、乾式二重床、複合は躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用している。	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.9	0.20	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用		PRTR法に該当しない建材種別が4つ以上ある。	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.5	0.70	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)		ODP=0、GWP=23の断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
3 冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2=66%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.69	-	-	
2 砂塵の抑制			3.0	0.01	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.29	-	-	
3.3 光害の抑制			4.4	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害配慮型軒下用LEDシーリングライトを採用。広告物照明を行っていない	5.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	